

事業成果報告書

〔取組Ⅰ〕 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 三重県教育委員会
2. 取組の名称 : 小中一貫教育推進事業
※事業完了報告書表紙の「1. 事業の名称」と同じ名称になります。

3. 事業の実績

(1) 事業のねらい

本事業を通して、子どもの成長に応じた小・中学校の円滑な接続のための取組を推進するため、先導的な取組を行う県内の市教育委員会による域内全域での小中一貫教育の推進に資する効果的な取組を支援し、普及を図る。委託先市においては、9年間を見通した特色ある教育活動を展開する中で学力向上、生徒指導、中一ギャップの解消、キャリア教育、郷土教育等についての研究を行う。小中一貫教育を推進するための体制の構築、学校設置者等との連携を図る。

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 事業の実施状況

小中一貫教育全国サミット等への参加や先進地視察などで得た知見などをもとに、協力3市の体制づくりが充実した。昨年度作成されたカリキュラムや学校運営に関わる組織等についても、研究を進める中で必要な修正が加えられ、本格実施に向けた取組が進められた。また、小中一貫教育推進会議において、各市の取組などの情報交流や課題解決に向けた協議により、小中一貫教育を推進するための方策について、共通理解を図ることができた。

平成29年度は、本事業の最終年度であり、これまでの取組を広く県内の市町に発信する必要があると考え、学校教育と社会教育の関係者および各市町等教育委員会事務局担当者を対象とした「次世代の学校・地域創生フォーラム」を開催し、本事業の成果等について発表を行った。

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体の実施状況について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(3) 事業の成果

いなべ市と名張市においては、平成30年度から小中一貫教育の本格実施となる。9年間を見通したカリキュラムも、3年間の実証研究で修正を加えながら、充実した内容とすることができた。

いなべ市では、算数(数学)・国語について、9年間の学びを見通したカリキュラムを作成し、基礎学力の向上を目指す取組を行った。

名張市では、英語教育を柱とした小中一貫教育を研究し、英語教育カリキュラムを作成した。また、ふるさと学習「なばり学」の創設に向け、学習資料集を作成するとともに、英語を活用した地域の情報発信に取り組んでいる。

桑名市においても、モデル校である多度中学校区の取組をもとに、平成32年度から市内全中学校区で小中一貫教育を実施することが計画された。

これらの協力市の取組を広く発信することで、県内の小学校と中学校の連携を行う学校が増えてきている。

(4) 今後の取組予定

国の動向に注視しながら、本事業の協力3市の取組を支援するとともに、その成果と課題を把握し、県内に情報を発信していく。

(具体的な取組)

- ・小中一貫教育の先進的取組事例の情報収集および情報の発信。
- ・協力3市の小中一貫教育について、取組の状況等を把握し、必要に応じて指導助言を行う。
- ・県内の小中連携の取組の状況を把握し、小中一貫教育の導入を検討する市町に対し、情報を提供するとともに指導助言を行う。

※ [取組Ⅰ] [取組Ⅱ] の両方を含む事業全体の今後の取組予定について、簡潔に記載すること。

※ 必要に応じて、適宜、枠を広げること。

4. 取組Ⅰの実績

(1) 取組のねらい

本事業を通して、子どもの成長に応じた小・中学校の円滑な接続のための取組を推進するため、先導的な取組を行う県内の市教育委員会による域内全中学校区での小中一貫教育の推進に資する効果的な取組を支援し、普及を図る。

※ [取組Ⅰ] において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。

※ 必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組Ⅰの実施状況 (平成29年度)

4月	・全体指導主事等会議<21日> (県内市町等教育委員会指導主事へ、協力3市の取組による成果等の紹介)
7月	○第1回三重県小中一貫教育推進会議<25日> (最終年度の成果をよりよくするための取組について)
8月	○平成29年度名張市学校・園教育研究集会参加 <18日> (協力市である名張市の取組協力校の小中学校教員を対象とした、小中一貫教育の取組についての研修会)
11月	○いなべ市立員弁中学校区小中一貫教育研究発表会<10日> (協力市であるいなべ市の取組協力校による公開授業、研究協議、中学校区の取組の経過報告、講師の貝ノ瀬滋氏からの助言と指導、講演) ○名張市立つつじが丘小学校研究発表会<14日> (協力市である名張市の取組協力校による公開授業、研究協議、中学校区の取組の経過報告、東京家政大学 太田洋教授による記念講演) ○小中一貫教育小規模校全国サミットin田原への参加<18日>
1月	○小中一貫教育全国サミットin京都への参加<25、26日> ○成果報告書の作成
2月	○次世代の学校・地域創生フォーラム<27日> (県内の学校教育・社会教育の関係者および各市町等教育委員会事務局担当者を対象として、小中一貫教育や地域とともにある学校づくりの実践発表、パネルディスカッション、文部科学省視学委員 貝ノ瀬滋氏による指導助言)
3月	○成果報告書の配付

※ 必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※ 取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※ 本事業から経費を支出した事項(会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など)については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

・小中一貫教育の本格実施に向け、協議を重ねる中で、カリキュラムの作成や運営体制の見直しに取り組み、これらを整えることができた。

・先進校の取組について情報収集することで、県内の取組に対して情報を提供するとともに、効果的な取組等、指導助言することができた。

・今後、小中一貫教育や小中連携教育の取組を推進する市町等に対し、効果的な導入方法や取組事例など、参考となる情報を収集することができた。

・本事業による3年間の研究について、その成果や知見を広く県内に発信することができた。

※ [取組Ⅰ] において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。

※ 必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

・子どもの学習への取組状況や子どもの生活状況等の課題に対する取組の1つとして、3年間の取組で得られた成果や知見を広める。

・3年間の取組の成果の発表、発信を続け、県内市町等における小中一貫教育、連携教育の意識向上や効果の理解を進める。

※ [取組Ⅰ] における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※ 必要に応じて、適宜、枠を広げること。

5. [取組Ⅱ] を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ-1	桑名市教育委員会	
Ⅱ-2	いなべ市教育委員会	
Ⅱ-3	名張市教育委員会	

※ 必要に応じて、適宜、行を追加すること。また、通し番号は、Ⅱ-1、Ⅱ-2、…とすること。

事業成果報告書

[取組Ⅱ] 市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ-1

※都道府県教育委員会において記載すること

1. 市町村教育委員会等の名称 : 桑名市教育委員会

住所 : 桑名市中央町2丁目37番地

代表者職・氏名 : 教育長 近藤 久郎

2. 取組の名称 : 9年間を見通した魅力ある教育活動への調査・研究

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

義務教育9年間を通して、子どもたちの確かな学力と豊かな心、健やかな体の育成のため、学習指導や生活指導に関する課題をはじめ、小中学校間の段差から生じる諸問題を解消しつつ、これまでの中学校区で取り組んできた小中交流・連携を推し進め、小中一貫教育の調査研究を進める。小中一貫教育に関して先進地視察を行い、全国の先進的な取組や桑名市の実情に合った取組から学ぶことや、大学の講師を招聘することにより、今後の桑名市の小中一貫教育の方向性を模索する。

※[取組Ⅱ]において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組Ⅱの実施状況(平成29年度)

4月	第1回多度中学校区小中一貫教育研究協議会(17日)
5月	第2回多度中学校区小中一貫教育研究協議会(22日) 第1回生徒指導部会(26日)
6月	多度小中一貫教育推進委員会(13日)
7月	第3回多度中学校区小中一貫教育研究協議会(10日) 第2回生徒指導部会(4日) 第1回環境交流部会(7日) 第1回学力向上A部会(7日) 第1回学力向上B部会(7日)
8月	小中一貫教育講演会(29日) 小中一貫教育研修会(30日) 第2回学力向上B部会(25日)
9月	第4回多度中学校区小中一貫教育研究協議会(6日) 第2回環境交流部会(8日) 第2回学力向上A部会(8日)
10月	第5回多度中学校区小中一貫教育研究協議会(2日) 第3回環境交流部会(26日)
11月	第6回多度中学校区小中一貫教育研究協議会(14日) 第1回桑名市小中一貫教育基本方針策定委員会(30日) 第3回学力向上A部会(24日) 第4回環境交流部会(27日) 多度中学校区音楽芸術のつどい(28日)
12月	第7回多度中学校区小中一貫教育研究協議会(13日) 第2回桑名市小中一貫教育基本方針策定委員会(26日) 第3回生徒指導部会(4日) 第3回学力向上B部会(25日)
1月	第8回多度中学校区小中一貫教育研究協議会(22日) 第3回桑名市小中一貫教育基本方針策定委員会(12日) 先進地視察(広島県府中市教育委員会、府中学園)(15日・16日) 先進地視察(第12回小中一貫教育全国サミットin京都)(25日・26日) 第4回学力向上A部会(30日)

2月	第9回多度中学校区小中一貫教育研究協議会(19日) 第4回桑名市小中一貫教育基本方針策定委員会(16日) 第5回環境交流部会(8日)
3月	第10回多度中学校区小中一貫教育研究協議会(日未定)

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項(会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など)については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・「多度中学校区小中一貫教育研究連絡会」においては、教育委員会事務局との連携を図る上で貴重な会であり、年間の取組を協議し、進捗状況を確認することができた。 ・「多度小中一貫教育推進協議会」を新たに設置し、部会組織を再編したことで、部会活動のねらいが明確になり、全教職員が所属し、それぞれの活動を推進することができた。 ・「生徒指導部会」において、4小の統一した「生活のきまり」を作成した。中学校の校則について小学校とも共有した。 ・「環境交流部会」において、中学校区の交流事業を進め、小学生にとっては、中学生へのあこがれや進学に対する期待感を高めることができた。また、保護者・地域の方に交流行事等を鑑賞していただき、事業に対する理解が深まった。 ・「学力向上A部会」においては、「体力向上ハンドブック」を作成し、中学校区各校で共通のメニューで体力向上に向けての指導ができるようになった。また、スポーツテストを中学校区全学校で実施した。データの結果分析をし、小学校から中学校へ引き継ぐとともに、強み弱みを把握した体育授業実践を行った。 ・「学力向上B部会」において、各校の既存の「家庭学習の手引き」を共有し、中学校区で1本化した。また、学習規律等についても「学習のきまり」を1本化を図った。 ・「人権・同和教育部会」においては、地域を巻き込んだ人権啓発活動を継続して取り組んだ。また、9年間を見通した人権教育カリキュラムに着手した。 ・「小中一貫教育講演会」では、講師に京都産業大学の西川信廣教授を招聘し「小中一貫教育の意義と可能性」と題して講演いただいた。「小中一貫教育がトップダウンではなく学校現場の声から始まっていることに対する新たな認識」「取り組むねうち」について、参加者から前向きな意見が聞かれた。 ・「小中一貫教育研修会」では、今年度「施設一体型一貫校」を開校したいなべ市の担当指導主事に、開校に向けての準備、開校後の様子について聞かせていただいた。グループ討議をする中で、今後取り組むべきことや一貫校建設に向けて地元住民や教職員に対して十分な情報発信と説明が必要であることが分かった。 ・「桑名市小中一貫教育基本方針策定委員会」では、今後の推進内容を中心に協議いただいた。市として、力を入れていくことや中学校区としてすべきことが整理できた。また、分散進学や一貫校建設に向けての課題等についても意見交流することができた。 ・先進地視察では、施設面で教室配置の仕方や教室数など工夫されているところが多々あり、今後の一貫校建設に向けて大変参考になった。また、教育課程や教育内容については、常に深化発展を考え、学習指導、生徒指導両面においてその成果を挙げていることが分かり、今後の方針を立てる上で参考になった。

※〔取組Ⅱ〕において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> ・平成32年4月、全市的に小中一貫教育を導入する。 ・各中学校ブロックの取組を積極的に交流しながら、各ブロックに合った推進体制づくりをしていく。 ・来年度の多度中学校区各部会においては、次のことを手がけていきたい。 <ul style="list-style-type: none"> <環境交流部会>総合的な学習の時間カリキュラムづくりをしていく。 <学力向上B部会>「家庭学習の手引き」「学習のきまり」の内容について改善を図る。 <人権・同和教育部会>人権教育カリキュラムを作成する。
--

※〔取組Ⅱ〕における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ-2

※都道府県教育委員会において記載すること

1. 市町村教育委員会等の名称 : いなべ市教育委員会

住所	:	いなべ市大安町2704番地
代表者職・氏名	:	教育長 片山富男

2. 取組の名称 : いなべ市新しい学校づくり

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

子どもたちの「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」を育み、主体的に自らの未来を切り拓く力や豊かな人間関係を結ぶ力など一人ひとりの可能性を最大限に引き出すために、「目指すべき子どもの姿」を明確にし、その姿を学校・地域・家庭が共有し、現在の小中連携をさらに推し進め、9年間の義務教育に責任を持った「9年間の学びと育ちをつなぐ教育」を推進する。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

4月	【いなべ市小中一貫教育推進委員会】 （4月27日） 【市教研運営委員会】 （4月7日） 【中学校区小中一貫教育推進WG会議】 ※各中学校区の計画による 【市教研研修委員会】 （4月14日） 【中学校区合同研修会】 ・員弁中学校区（4月26日）
5月	【市教研運営委員会】 （5月19日） 【中学校区小中一貫教育推進WG会議】 ※各中学校区の計画による 【いなべ市英語カリキュラム編成委員会】 （5月18日） 【市教研総会】 （5月10日） 【中学校区合同研修会】 ・北勢中学校区（5月29日） ・員弁中学校区（5月17日） ・大安中学校区（5月31日） ・藤原中学校区（5月31日）
6月	【いなべ市小中一貫教育推進委員会】 （6月29日） 【市教研運営委員会】 （6月16日） 【中学校区小中一貫教育推進WG会議】 ※各中学校区の計画による 【いなべ市英語カリキュラム編成委員会】 （6月22日） 【中学校区別研修】 （6月14日：校区統一日 ※大安中学校区は12日） 【中学校区合同研修会】
7月	【中学校区小中一貫教育推進WG会議】 ※各中学校区の計画による 【中学校区合同研修会】

8月	<p>【いなべ市小中一貫教育推進委員会】 (8月29日)</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>※各中学校区の計画による</p> <p>【市教研研修委員会】 (8月25日)</p> <p>【いなべ市英語カリキュラム編成委員会】 (8月10日、31日)</p> <p>【中学校区合同研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北勢中学校区 (8月23日) 都留文科大学 品田笑子先生をお迎えして ・員弁中学校区 (8月9日、22日) ・大安中学校区 (8月23日) ・藤原中学校区 (8月22日)
9月	<p>【市教研運営委員会】 (9月8日)</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】 (9月14日)</p> <p>【いなべ市英語カリキュラム編成委員会】</p>
10月	<p>【いなべ市小中一貫教育推進委員会】 (10月19日)</p> <p>【市教研運営委員会】 (10月13日)</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>※各中学校区の計画による</p> <p>【いなべ市英語カリキュラム編成委員会】 (10月12日)</p> <p>【中学校区合同研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大安中学校区 (10月25日) ・北勢中学校区 (10月25日) 大阪教育大学 臼井 智美先生をお迎えして
11月	<p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>※各中学校区の計画による</p> <p>【いなべ市英語カリキュラム編成委員会】 (11月2日)</p> <p>【中学校区別研修】 (11月1日：統一日)</p> <p>【藤原中学校区研究発表会】 (11月8日)</p> <p>【員弁中学校区研究発表会】 (11月10日)</p> <p>【中学校区合同研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤原中学校区 (11月15日)
12月	<p>【市教研運営委員会】 (12月1日)</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>※各中学校区の計画による</p> <p>【市教研研修委員会】 (12月15日)</p> <p>【いなべ市英語カリキュラム編成委員会】 (12月14日)</p>
1月	<p>【いなべ市小中一貫教育推進委員会】 (1月5日)</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>※各中学校区の計画による</p> <p>【いなべ市英語カリキュラム編成委員会】 (1月18日)</p> <p>【中学校区合同研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤原中学校区 (1月17日) <p>【第12回小中一貫教育全国サミットin京都への参加】 (1月25日～26日)</p>

2月	<p>【いなべ市小中一貫教育推進委員会】（2月15日）</p> <p>【市教研運営委員会】（2月1日）</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>※各中学校区の計画による</p> <p>【市教研研修委員会】（2月16日）</p> <p>【いなべ市英語カリキュラム編成委員会】（2月8日）</p> <p>【中学校区合同研修会】</p> <p>・藤原中学校区（2月28日）</p> <p>【たのしく豊かな学校生活を送るために（手引き）の配付】</p> <p>・平成30年度小学校新1年生を対象に、入学説明会にて配付</p>
3月	<p>【市教研運営委員会】（3月2日）</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>※各中学校区の計画による</p> <p>【いなべ市英語カリキュラム編成委員会】（3月8日）</p> <p>【中学校区合同研修会】</p> <p>・員弁中学校区（3月20日）</p>

(3) 取組の成果

<p>① 平成30年度版 小中一貫教育保護者リーフレットの作成・配付</p> <p>平成29年度を取組をまとめ、平成30年度版として小中一貫教育保護者リーフレットとして作成、保護者・地域（組回覧）に配付した。</p> <p>② 藤原小学校開校と2中学校区での小中一貫教育の本格実施</p> <p>藤原旧5小を統合し、中学校併設型小学校として開校。藤原中学校とともに、施設一体型小中一貫教育校が誕生した。</p> <p>これにより、員弁中学校区（施設分離型）とともに、小中一貫教育が本格実施となった。</p> <p>③ いなべ市小中一貫教育推進委員会の設置</p> <p>これまでの「いなべ市小中一貫教育検討委員会」を「いなべ市小中一貫教育推進委員会」と名称を変更し、新たに、教頭会からの代表など、構成員を増員し、主に、いなべ市全体の課題に関わる案件や各中学校区を取組交流を中心とした会議を開催した。</p> <p>④ 研究発表会の実施</p> <p>これまでの取組の経過を示し、研究課題を明らかにするために、発表会を開催した。</p> <p>(1) 員弁中学校区</p> <p>小学校2校で、それぞれ3学級を公開した。中学校では、3学級の提案に加えて、6学級の公開を実施した。記念講演では、文部科学省視学委員の貝ノ瀬 滋氏をお迎えして、「施設分離型小中一貫教育の未来を展望する」と題して講演いただいた。参加者は、市内外合わせて、121名。</p> <p>(2) 藤原中学校区</p> <p>平成30年度に本発表を予定し、プレ発表的に発表会を行った。小学校3学級、中学校1学級の公開を実施した。全体会では、先進的に取組を進めている奈良市立富雄第三小中学校から現場の先生を2名お迎えして、施設一体型小中一貫教育を始めた当初の話を中心にこれまでの取組について、紹介していただいた。参加者は、市内外合わせて、177名。</p> <p>⑤ 推進体制の充実</p> <p>各中学校区に配置した2名の小中一貫教育コーディネータを中心に、市教育研究会と連携しながら、推進体制を整えるとともに、合同研修会を実施し、小中9年間の見通しを持った教育活動を展開するための素地が出来上がり、具体的な取組へと進めていくことができた。</p> <p>⑥ いなべ市小中一貫教育実施要綱の施行</p> <p>今年度、策定した「いなべ市新しい学校づくり基本方針」をもとに、いなべ市が小中一貫教育を推進することを明らかにするために、平成30年4月1日施行を目標に、準備を進めている。</p> <p>⑦ 成果指標の設定と評価方法の確立</p> <p>いなべ市で実施していきたいいなべ市児童生徒生活アンケートと全国学力学習状況調査との整合性を図り、今後は、全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙の関連項目を評価項目とした。</p> <p>以下、成果指標と成果項目（質問紙調査）及び経年の結果である。</p>

1 勉強が好きな子

①国語の勉強は好きです

		27年度	28年度	29年度	目標値	
小学校	いなべ市	53.0%	52.1%	55.9%	65	▲
	全国	61.1%	58.3%	60.5%		
中学校	いなべ市	58.8%	60.6%	51.1%	65	▲
	全国	60.5%	59.8%	60.5%		

②算数(数学)の勉強は好きです

		27年度	28年度	29年度	目標値	
小学校	いなべ市	61.0%	64.9%	64.9%	70	▲
	全国	66.6%	66.0%	65.9%		
中学校	いなべ市	55.9%	62.7%	73.0%	60	◎
	全国	56.0%	56.0%	55.4%		

2 主体的に学ぶ子

①ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがあります

		27年度	28年度	29年度	目標値	
小学校	いなべ市	96.9%	95.5%	94.6%	95	▲
	全国	94.5%	94.4%	94.8%		
中学校	いなべ市	96.0%	96.1%	94.6%	95	▲
	全国	94.2%	94.3%	94.7%		

3 自分のよいところを伸ばし、挑戦する子

①自分にはよいところがある

		27年度	28年度	29年度	目標値	
小学校	いなべ市	82.7%	75.4%	81.1%	85	○
	全国	76.4%	46.3%	77.9%		
中学校	いなべ市	70.9%	76.4%	72.7%	85	▲
	全国	68.1%	69.3%	70.7%		

4 健康で思いやりのある子

①いじめはどんな理由があってもいけないことだと思います

		27年度	28年度	29年度	目標値	
小学校	いなべ市	97.0%	96.9%	95.4%	100	▲
	全国	96.2%	96.6%	96.1%		
中学校	いなべ市	96.6%	94.7%	96.3%	100	○
	全国	93.7%	93.6%	92.8%		

5 友だちと協力し、達成感を味わえる子

①学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあります

		27年度	28年度	29年度	目標値	
小学校	いなべ市	90.6%	88.3%	90.0%	95	○
	全国	86.1%	86.3%	87.8%		
中学校	いなべ市	86.7%	90.5%	91.4%	95	○
	全国	84.2%	84.2%	86.0%		

6 ふるさと“いなべ”を愛する子

①今住んでいる地域の行事に参加しています

		27年度	28年度	29年度	目標値	
小学校	いなべ市	86.6%	88.0%	79.4%	85	○
	全国	66.9%	67.9%	62.6%		
中学校	いなべ市	66.6%	62.7%	64.6%	70	○
	全国	44.8%	45.2%	42.1%		

7 将来の夢や目標に向かって努力する子

①将来の夢や目標を持っています

		27年度	28年度	29年度	目標値	
小学校	いなべ市	85.8%	84.0%	87.8%	90	○
	全国	86.5%	85.3%	85.9%		
中学校	いなべ市	70.2%	69.6%	71.8%	90	○
	全国	71.0%	71.1%	70.5%		

(4) 今後の取組予定

【推進体制について】

「いなべ市小中一貫教育推進委員会」を中心に「いなべ市教育研究会」と連携しながら、具体的には、小中一貫教育COが推進役となって「中学校区小中一貫教育推進WG会議」にて、取組を計画する。

【北勢中学校区・大安中学校区の小中一貫教育の本格実施】

これにより、いなべ市内4中学校区すべてが小中一貫教育の実施となる。

【いなべ市小中一貫教育実施要領の施行】

平成30年4月1日施行。

【大安中学校区研究発表会】 (10月26日)

【北勢中学校区研究発表会】 (11月2日)

【藤原中学校区研究発表会】 (11月9日)

これまで主に、体制・組織を整備してきたが、来年度以降は、めざす子ども像に向かって具体的な実践について、検証・改善を繰り返していきたい。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ-3

※都道府県教育委員会において記載すること

1. 市町村教育委員会等の名称 : 名張市教育委員会

住所	: 名張市鴻之台1番町1番地
代表者職・氏名	: 教育長 上島 和久

2. 取組の名称 : 小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

・小学校6年間、中学校3年間という括りを取り払い、様々な教育課題の解決を目指して、子どもの育ちに合った9年間の一貫した、系統性・連続性のある教育の在り方について考える。

(1) 教育委員会の取組

- ・南中学校、つつじが丘小学校を小中一貫教育研究推進校に指定(3年目)。
- ・名張市小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会を設置し、名張市が進める小中一貫教育とコミュニティ・スクール導入の取組について協議する。
- ・小中一貫教育コーディネーター(業務補助)を研究推進校に配置し、研究の推進と教育委員会との連絡調整にあたる。3年目となる本年度は、事業の成果検証のための情報収集や資料作成を行う。
- ・研究推進校の研究の進捗状況や成果等を把握・検証し発信するとともに、市内全小中学校の小中一貫教育導入に役立てる。
- ・小中一貫教育コミュニティ・スクール講演会を開催し、教職員や保護者・地域住民等の小中一貫教育に対する理解を深めるとともに市内全小中学校における小中一貫教育導入の準備を進める。
- ・小中一貫教育リーフレットを作成・配布し、教職員や保護者・地域住民等の小中一貫教育に対する理解を深める。

(2) 研究推進校の取組

- ・研究指定3年目(1中学校、1小学校)を受け、英語教育・ふるさと学習・キャリア教育等を切り口とした研究(教育課程・教育活動等)を引き続き行うとともに3年間の成果について検証する。

(2) 取組Ⅱの実施状況(平成29年度)

4月	
5月	
6月	第1回小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会(昨年度の成果と本年度の取組課題・事業計画) 第1回研修推進校合同会議<組織づくり・年間計画作成、全体会・各部会> 第1回研修推進校代表者会 研究推進校研修会<小中一貫英語教育推進について>(講師招聘) なばり学担当者研修会<カリキュラム作成についての検討>
7月	第2回研修推進校合同会議<全体会・各部会>(講師招聘) 第2回研修推進校代表者会 小中一貫英語カリキュラム修正(新学習指導要領の趣旨に沿うとともに、研究推進校の検証に基づく) なばり学学習資料集校正

8月	第3回研修推進校合同会議<教科担任制・6年生登校の検証> 第3回研修推進校代表者会 小中一貫英語カリキュラム修正(案)作成 なばり学研修講座
9月	研究推進校研修会<授業研究事前検討> 小中一貫英語教育カリキュラム検討
10月	研究推進校研修会<授業研究>(講師招聘) なばり学カリキュラム検討
11月	第4回研修推進校合同会議<中間報告内容検討>(講師招聘) 第4回研修推進校代表者会 研究推進校取組報告(教育フォーラム)
12月	なばり学研修講座
1月	第5回研修推進校合同会議<各部会> 第5回研修推進校代表者会 小中一貫英語カリキュラム作成 なばり学カリキュラム作成 小中一貫教育全国サミットへの参加(京都市)
2月	第2回小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会(次年度以降の推進計画) 第6回研修推進校合同会議<本年度の取組の総括> 名張市版小中一貫教育リーフレットの作成 報告書作成提出
3月	第7回研修推進校合同会議<来年度の実施計画> なばり学学習資料集(上巻)完成

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項(会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など)については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

・研究推進校においては、児童生徒の実態や地域の課題等を踏まえて、めざす学校像、めざす子ども像を掲げ、グランドデザインを作成し、義務教育9年間の「学び」と「育ち」に関わる当事者として、小中学校の教職員が校種を越えて主体的に行動し取り組む道筋ができた。

・昨年度まで「まなび」「からだ」「こころ」「ちいき」の4部会のほかに各教科部会を組織していたが、4部会の中を細分化し10グループにすることで、それぞれの教職員が意識を持って主体的に活動できるように改善することができた。

児童・保護者を対象としたアンケート結果からも、教科担任制、乗り入れ授業、中学校英語教師による外国語活動、中学校行事への参加、出前授業等、すべての項目において、保護者からは一定の評価を得ている。また、6年生は中学校に進学するという意識が強まり、入学することに対するギャップを感じるものが少なくなっている。教科担任制を小学校段階で取り入れることにより、より専門的な学習にふれ、学習への興味・関心が強くなってきている。また、子どもが小中一貫教育を肯定的に感じることで、保護者の中学校進学への安心感につながっている。

・小中学校の教職員が同じ目的の下、研修会や部会で協議を重ねる中で、理解が深まり協力し合える関係ができてきた。具体的には、小学校と中学校という枠組みを越えて互いの取組や実情を交流し、小中学校の教職員や児童生徒が互いを知ることができた。また、教職員や児童生徒の交流を促進することで、教職員や児童生徒の意識が変わり、教職員の主体的な動きにつながってきた。そのことが、児童の中学校生活への不安感の減少や学習意欲の向上につながった。また、互いを知ることによって教職員の意識変化や子どもの意欲が向上したことを受けて、小学校と中学校が系統性・連続性のある指導を行う必要性の認識が高まり、日々の授業改善や生徒指導の充実を図ることができた。

・小中学校の教職員が、今までやっていたことを小中一貫教育の視点や観点で整理したり、小学校は中学校を、中学校は小学校を知ろうという思いを持ったりして、子どもたちの指導・支援に役立て、子どもを主体とした取組に生かそうという意識が醸成されてきた。

・保護者・地域住民へ「小中一貫教育だより」を発行したことで、小中一貫教育について保護者・地域への発信は有効で、平成29年度からコミュニティ・スクールを導入する中で、さらに、地域や保護者の協力が得ることができた。

・市としては、英語担当者会にてカリキュラムについて協議し、各中学校区から小中学校教諭を公募してプロジェクトチームを作り、研究推進校のつつじが丘小学校・南中学校で取り組み、検証しながら新学習指導要領の内容に沿ったものへと修正を加えた。

特に、「ふるさとを英語で発信することができる児童生徒の育成」のために英語教育カリキュラムの中に示したスカイプや国際交流イベントの総合的な学習の時間を活用した実践例について、教科横断的に実施するふるさと学習「なばり学」カリキュラムの方へ移行し整理した。

さらに、新学習指導要領に示された英語教育の早期化と教科化に対応するため、今回作成した小中一貫カリキュラム「英語教育」は、移行期の内容を確実に指導し、小中学校で互いの指導内容や指導方法を共有することを主眼に置いて作成した。

また、幼児教育と学校教育のスムーズな接続のためのしっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラムと連動させ、就学前(5歳児)のカリキュラムも含め10年間の一貫したカリキュラムとした。

・ふるさと学習「なばり学」小学校1年生～4年生用の学習資料集上巻の作成、年度末配付を目指して担当者会を開催し、原稿の校正作業を行った。学校と地域をつなぐなばり学専任コーディネーターの設置、ふるさと学習「なばり学」の実施要領の作成、授業プランや映像資料等の指導資料の作成、教育センター研修講座による周知やプロジェクト研究による効果的な指導法の研究等、準備を進めてきた。平成30年度は学習資料集上巻を使ってすべての小学校で1年生から4年生まで活用する。そのためのカリキュラムも立案した。

・キャリア教育については、異学年や保護者・地域住民との交流活動により、自己肯定感や人と関わる意欲・力を育てるとともに、学校が企業等と連携をして、夢を持ち、その実現に向けて主体的に取り組み実践する力を育てる目的で、9年間の育ちを見据えて、各学校においてキャリア教育カリキュラムを作成した。

・小中一貫教育リーフレットを作成・配布し、教職員や保護者・地域住民等の小中一貫教育に対する理解を深めた。

アウトカム評価の結果（研究推進校）

(1) Q-U調査における学級生活満足群の割合（3年間の変容）

・小学校高学年満足群の割合

平成27年度実施：57.9% →平成29年度実施：63.9%

・中学校満足群の割合

平成27年度実施：66.4% →平成29年度実施：65.0%

小中学校ともに満足群の割合が向上しており、良い傾向にある。小学校では、目標としていた、小学校：60%を越えたが、中学校は68%には達していない。

(2) 不登校児童生徒数

現中3・・・H27 3人、H28 4人、H29 2人 (H29の数値は平成30年1月末現在)

現中2・・・H27 1人、H28 2人、H29 2人

現中1・・・H28 2人、H29 2人

小学校6年生からの不登校生の推移を見ると、3年間の取組・実践を通じて、現中学3年生は、不登校生が減少し、中学1年生と2年生では、新規の不登校生を生んでいない。

	H27	H28	H29 (平成30年1月末現在)
小学校	4	4	3
中学校	10	8	6

小中一貫教育の取組・実践により不登校児童生徒数も徐々に減少傾向にある。

(3) 全国学力・学習状況調査結果 (平均正答率)

南中学校

	H27	H28	H29
国語A	77.9	73.9	76.9
国語B	66.4	65.6	72.0
数学A	64.4	64.7	65.0
数学B	38.3	46.4	49.0

数学においては、平均正答率が3年間で上昇してきていることが分かる。また、現中学3年生が小学6年生時の全国比を比較すると、国語A5.5ポイント、国語B0.1ポイント、数学A5.5ポイント、数学B11.7ポイント伸びている。

(4) 今後の取組予定

- ・来年度は、研究推進校以外の他の中学校区における小中一貫教育についての体制整備をさらに進めていく必要がある。
- ・今後、第2次名張市子ども教育ビジョンに基づき、名張版コミュニティ・スクールを基盤として、小中一貫教育を推進するなかで「地域とともにある魅力ある学校づくり」をすすめていく予定である。

※ [取組Ⅱ] における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※ 必要に応じて、適宜、枠を広げること。